

世界道路交通犠牲者の日



ポルトガルにおけるキャンドル点火の様子
© Pedro Costa / Lusa

毎日のように、世界のどこかで、この表題のような事態が起こっている。これらのニュースになるはずの出来事のいずれもが、死亡例であろうとなかろうと、かくも「日常茶飯事」になってしまったがゆえに、報道さえされなくなってしまった。

世界中では、交通犯罪によって毎日3400人以上の人々が亡くなっており、毎日万単位の人々が後遺症となる障害を負っている。これらの出来事が負傷の当事者とその家族・友人・地域社会にもたらしている悲惨さは計り知れない。

記念日の目的は、わが同胞の遺族に対して連帯と友情を捧げるものであり、交通犯罪がもたらした惨状に目を向け、この虐殺の終焉を祈念するものである。

Brigitte Chaudhry, Founder RoadPeace, UK, and President, European Federation of Road Traffic Victims

近親者たちには、愛する者を奪われた悲しみを表現し、亡くなった者のことについて語る機会を与えられる。それ以外の者は、これ以上悲劇を繰り返さないために、道では正しく振舞うことを約束することで、これらの者たちに敬意を表すことを忘れない機会とする。

Charalampos Katoglou, Board Member, Hellenic Association for Road Traffic Victim Support, Greece

この記念日は、すべての犠牲者の連携を創る。他の人々は忘れようとするが、それは良くない。この追悼は家族の者にとって非常に重要である。その悲劇について語る必要がある家族、ろうそくに点火したり、儀式を行う家族などにとって。

Jeannot Mersch, President, Association nationale des Victimes de la Route, Luxembourg

交通犯罪で死傷した人の数は、人間が引き起こした惨事のうちで他をはるかに引き離す最大のものとなっている。この記念日は、この死傷者数が全く容認できないものであることを社会に明白にしている。人間としての悲劇という意味でも、経済的コストという意味でも。この記念日は、喪失したものを他者と分かち合う機会ともなる。そして、それによってこれを理解する過程に役立つかもしれない。

Hans van Maanen, Board Member, Vereniging Verkeersslachtoffers, Netherlands

この日は重要である。なぜなら、この大災害に関する情報の欠如が社会的無関心を引き起こしているからである。

Jean Picard, Vice President, STOP-ACCIDENTS, Spain



この資料は、世界保健機関(WHO)が制作した英語版から翻訳された今井博之氏の日本語版をもとに制作したものです。制作・普及に携わられたみなさんに謝意を表します。

世界道路交通犠牲者の日は、交通犯罪によって世界全体で何百万人もの人々が亡くなっているという事実を認識し、交通犯罪が及ぼす遺族への破滅的な影響や、本人とその家族、社会に及ぼす傷害に対する社会的関心を引き出すための機会を年に一度、提供するものです。

なぜ世界道路交通犠牲者の日？

イギリスのロードピースという道路交通犠牲者のチャリティー組織が、11月の第3日曜日を「道路交通犠牲者を追悼する日」と定めて、毎年記念することが1993年からはまりました。以来、この日が遵守され、ロードピースや欧州道路交通犠牲者連盟やそれらの多くの関連組織によって世界中に広がってゆきました。2005年10月26日の国連総会では世界の道路交通安全の改善に関する決議が採択され、その決議で毎年11月の第3日曜日を道路交通犠牲者の記念日と定められました。



300組のクツは毎月イギリスで交通犯罪で亡くなっている人の数と同じで、交通犯罪の悲しみを象徴している。

世界道路交通犠牲者の日は、交通犯罪が地域社会に与える負担の大きさを広く社会が認識し、私たちの健康と発展を阻害するこの大問題の制御に着手し、発展させ、犠牲者を支援することなどが必要であるということをみなさんに再認識していただくための、年に一度の機会なのです。